C・C・C

Create　Communicate　Challenge

令和 5年 7月19日(水)
国立市立国立第三中学校
第1学年 学年通信 No.7
文 責:

合唱コンクール放課後練習が始まりました。

7月12日から合唱コンクール放課後練習が始まりました。
まだ、始まったばかりなので、パートごとに分かれ、音程をさぐりながら練習しています。1学期の放課後練習は昨日で最後でしたが、すでに教室割り当てもされ、特別教室での練習もはじまりました。

2学期は9月1日（金）から放課後練習が始まり、9月15日（金）が合唱コンクール本番です。会場はRISURU ホールとなり、体育館よりさらに広い場所で声を響かせることになります。

夏休みのうちに何度も聞いたり歌ったりして、自由曲・課題曲を自分たちのものにできると良いと思います。

【合唱コンクール実行委員より】

みんな合唱コンクールは初めてだけど、みんなで楽しみながら練習して、みんなでいい結果を出したいと思います。

1組　男子

一回一回の練習を大切に、不安がある中、自分なりに努力して本番に挑みましょう！また、各パートの皆が一つとなり、きずなを深め、今のクラスで最高の思い出になるように、一人ひとりが頑張りましょう。

1組　女子

僕たちにとってはじめての合唱コンクールですが、クラス一丸となって最高の合唱コンクールにしましょう。

2組　男子

私たちにとって初めての合唱コンが、良い思い出になるように、私たち合唱コンクール実行委員が中心となって頑張っていけたらなと思います。クラス全員の気持ちが1つになるように練習していきましょう。

2組　女子

合唱コンクールの日が少しずつ近づいています。夏休みをはさむので、しっかり練習していきましょう。

3組　男子

努力をした成果を本番で熱唱し、ホール全体に響かせるような歌声を出せるように練習していきたい。

3組　女子

合唱コンクール　自由曲について

課題曲は「マイバラード」です。
自由曲は以下のようになっています。

1組　空は今
2組　COSMOS
3組　輝くために

写真

車いすバスケットボールを体験しました。

7月14日（金）5・6時間目は、車いすバスケットボールチームGRACEの小田島理恵さん、多智利枝さん、田中久美さんをお招きして、車いすバスケットボール体験をしました。

メインでお話をしていただいたのは、小田島さん。なんと、東京2020パラリンピアンです。

5時間目の前半は自己紹介もかねて、車いす生活になった経緯を教えてくださいました。小中高はみなさんと同じように習い事や部活動を頑張っていました。専門学校に通うようになり、ストレスから摂食障害・うつ病を患い、入退院を繰り返していました。そんな22歳の頃、事故に遭ってしまい、脊髄を一部切断してしまいました。しかし、事故をきっかけに、元気になることができました。なぜなら事故のおかげで人を頼ることができるようになったからです。だから、みなさんも苦しくなったときには、周りの人を頼りながら踏ん張れるといいな。というお話でした。

後半には車いすの操作方法とバリアフリーの話をいただきました。少しの段差は訓練で上がれるようになりますが、結構な段差の時に手助けをしてほしいこと。その際にコミュニケーションをとってほしいこと。車いすに乗っている人は腹筋・背筋がきかないので、下に落ちた紙1枚や1円玉を取ることも大変、買い物のときの棚の上のものを取るときも大変。だから、そんなときに声をかけてもらえると嬉しいです。ということでした。

写真

6時間目は、車いすバスケットボールの体験です。いつもの広さのコート、いつもの高さのゴール。しかし車いすに乗ってプレーをします。いつものバスケはボールをもったまま2歩までしか移動できませんが、車いすバスケの場合も、ボールを持ったまま2漕ぎしかできません。ダブルドリブルのルールはないので、「2漕ぎしてまたドリブルすれば、前に進むことができる」ということでした。

車いすの操作を経験し、車いすバスケを行いました。いつもとは違う低い目線からシュートを放つことには苦戦しましたが、得点を決める人もいました。また、みんなで応援して、シュートがはずれたらみんなで悔しがり、シュートが決まったらみんなで喜ぶ。そんな姿もとても印象的でした。

最後には「みなさんの【心のバリアフリー】があると、車いすに乗っている人たちの困っていることもなくなります」ということでした。車いすバスケを体験したことで、私たちと車いすに乗っている人たちの間にあった透明の壁もなくなりました。障害のあるなしに関わらず助け合いの心をもって、人生で壁にぶつかったとき、周りの人と一緒に乗り越えてほしいというまとめで、体験は終了となりました。